

三月も中頃を過ぎますと、境内を埋め尽くしていた雪も何処かに消え、太陽の日差しと暖かくなった空気を浴び、春が近づいてきたことが実感できるようになってきました。

さて、三月二十日の「春分の日」をお中日とし、前後の七日間を「お彼岸」と呼び、この時期各地の墓地では、お墓参りに出掛けることが広く行なわれてきました。この様子は、テレビや新聞でも報道されたりするので、この時期の風物詩にもなっています。ですから「お彼岸」はお盆と並び、私たちの日常生活の中で、非常に身近で代表的な仏教行事と言えます。

お墓参りをする理由として、多くの方が「先祖供養のため」と言われます。確かにお墓には、先祖代々のお骨が収められています。ですから、お墓に手を合わせればご先祖の供養をした気持ちになるのでしょうか。

しかし、なかにはお墓に向かい、願い事や頼み事をしている方もあります。「ご先祖のため」と言いながら、実は「自分のため」にお墓に手を合わせているのです。それならば、自分の願望を満たすために、先祖の名を利用し自己満足しているに過ぎないのでないでしょうか。

私たち真宗門徒は、聞法を通して、良い事も悪い事も有りのまま事実として我が身に引き受けていく生活を大事にしてまいりました。

日々日常生活に明け暮れていく中、「お彼岸」「お墓参り」という仏法聴聞の場をきっかけに、自分自身に真向かいになり、生き方を問う生活を大事にしたいと思います。